



大和市協働ルール（拠点部会）

No.1

ワークショップニュース

はじめに

2004年1月17日、大和市協働事業における「協働の拠点を検討する」ことをテーマに、拠点となるプレハブにおいてワークショップが開かれました。拠点に関するワークショップは全部で2回予定されています。第1回目の今回は、主に「拠点の機能について検討する」ことを目的としています。第2回目

は2月8日を予定しており、主に「運営方法について検討する」こととしています。

第1回ワークショップの開催に当たり、拠点部会部会長である小杉皓男氏からワークショップの目的と流れについて説明がありました。

第1回のワークショップを開きたいと思います。私は、拠点部会をやっている小杉と言います。午前中、森の手入れを1人でしていましたら、みるみるうちに白い風景になってきました。大変気持ちの良い午前中でした。

そんな中、今日は足をお運びいただきありがとうございます。外は寒いけれど、狭い中で熱気ある討論をして、心も周りも暖かくなったら良いなと思っています。

第2回目は2月8日(日)を予定しています。今回の流れは玉川まちづくりハウスの伊藤さんが進めます。（小杉皓男）

【拠点部会ワークショップの流れ】

第1回ワークショップ

「協働の拠点の機能について検討する」
2004年1月17日



第2回ワークショップ

「協働の拠点の運営方法について検討する」
2004年2月8日



今までの話し合いで紆余曲折がありましたが、このプレハブを拠点として利用していこうとなりました。実際に、その場でやることでリアリティーがあり、話し合っていくのにも良いのではと思い、狭いですがここでやることにしました。

ワークショップは2回を予定しています。1回目は機能について、2回目は運営について話し合います。運営方法は、市民が主体となる方針はありますが、いろいろな方法があるので話し合っていきたいと思っています。（玉川まちづくりハウス・伊藤雅春）

活動拠点について今までの経緯と整備の基本的な考え方を拠点部会より報告

これまでの拠点部会の経緯についてお話ししておかなければと思っております。

拠点を決めていくというのは、より市民活動が活発になるように、そして、ここがどれだけ機能していくかによって大和の市民力が試される場になっていくのではないかと考えています。拠点部会は5～6人で月1回程度、市民活動課の皆さんのきめの細かいサポートをいただきながら活動してきました。

最初、夢が広がる方向に行きました。どこに建物をつくるか、どうしたら市民活動の卵の状態やヒヨコ状態の活動が共に育っていくのか、インキュベーション機能(孵化させる)についても話してきました。

大和市の市民活動推進条例9条に、「市民と事業者及び市は協働の原則に基づき、それぞれの役割分担に応じて、社会資源の充実を図るための活動の拠点を設置し」とあります。ここで言う社会資源というのは大事な言葉で、みんなで資源を出し合って大和市のまちづくりを進めていこうということだと思います。

また、行政主導で進めていくのではなく、市民が運営をどう担っていくかということが、この拠点づくりで試されていると思います。

最初はそういった意味で夢が広がってきましたが、予算措置が出てきました。どういったところにどんな形で拠点を置けばいいか、東京・港区、横浜で先輩としてやっている所に見学に行き、課題とこれからの見通しなどいろいろなお話を聞きました。

そうしたなかで、大和市としてできるだけお金をかけずに、既存の施設を拠点のイメージでとらえ直せないかと考えるようになり

ました。例えば、保健福祉センター、勤労福祉会館へ実際に行き、ワンフロアを恒常的に使うのはどうか、など話し合い追求してきました。そういうところは、それなりに機能していますので、恒常的にスペースを取ることが不可能だということになりました。

また、勤労福祉会館は防衛庁の補助金が出ているので転用するのに手続きなどで何年もかかるという話があったりしました。いろいろな問題があると理解していただきたい。とにかく、既存の施設を恒常的に拠点として使うことは難しいというなかで、行政の事務局の方が動いていただいて、このプレハブを大和市の協働の拠点の出発にしたいという結論になりました。予算が思っていたより出なかったという経緯もあります。

ここをどのように使うかということも、拠点部会が集まり知恵を出し合ってきました。その部分を含めつつこのワークショップがあります。

予算はほとんどないなかで、どのような機能を高めていくかが問題になります。ハードの面については、壁を塗り替える、バリアフリー、水回り、段差等の問題をクリアしていかなければなりません。それらをどこが管轄するか明確にし、運営委員をつくり、皆さんの合意の元で進めていかななくてはなりません。

今までの紆余曲折をお話させていただきましたが、これからも良い意味で紆余曲折が予想されますし、そういうなかでいろいろな考え方、思いを話していただき、大和市らしい合意点を見つけて進んでいきたいと思っています。

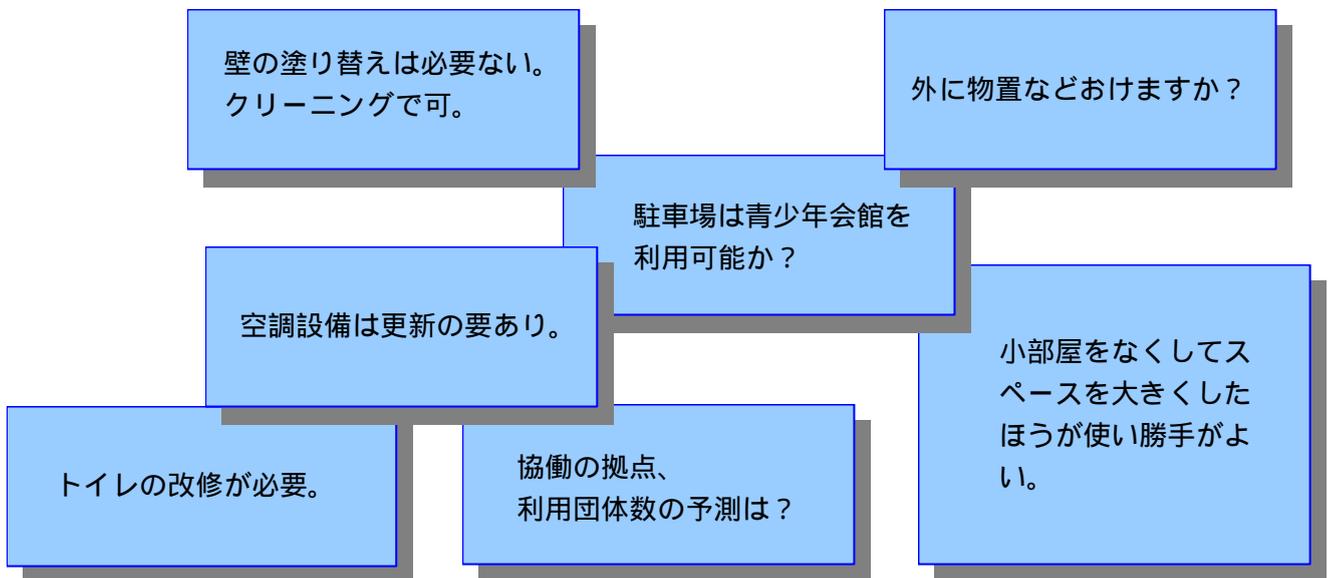
今日のこのワークショップで、皆さんの思いを素直に出していただきたいと思っています。



協働の拠点を探検しよう

協働の拠点となる、このワークショップが開かれているプレハブに参加している皆さんでくまなく探検し、感じたこと、質問などをポストイットに書き

出してもらいます。それらをもとにして質疑応答の時間を設け、事務局が皆さんの疑問にお答えします。



Q&A

この建物について

Q:どのくらいの予算があるんですか？

A:改修についてはほとんどないです。隣の部屋の床・内壁等はできます。こちらの部屋の改修は必要ないと思います。予算は300万円程度の予定です。

Q:この建物は以前何に使われていましたか？

A:青少年相談所です。現在は隣の青少年センターへ移りここは商工会議所の会議室・倉庫になっています。土地・建物は大和市になっており、商工会議所に貸しています。

Q:いくらくらいで貸していましたか？

A:商工会議所自体は市との協働事業のようなものなので、無償で貸していました。

Q:この建物の耐用年数は？

A:1975～80年くらいに建てられたものです。大和市駅周辺の再開発が行われるときには市民活動センターの施設を組み入れたいという要望もありますが、現時点ではまだ何も決まっていません。

Q:この辺の人の流れについて知っている方は

教えてください。

A:青少年センターが隣と、保健所が近くにあるので子ども連れの母親が結構歩いています。
・以前、ここで拠点部会を行ったのですが、周りが線路・公園・商工会議所なので、遅くまで騒いでも文句は言われなさそうだと感じました。
・鍵をどうするかといった問題もこれからの課題だと思います。この建物は、独立しているのが勤労福祉会館のように時間の制限がないのが大きなメリットになります。電車の人からもよく見えるので、空いているときは旗でも立てるなどいろいろな工夫ができるのではないかと思います。

Q:24時間使えるのですか？

A:それは、これからの議論です。特にクレームが付きそうな感じではないので、可能性はあります。

予算について

Q:予算として300万円予定されているということでしたがその予算枠の中で用途内容を変更することは可能ですか？

A:変更しますと財政当局と相談しなければなりません。

Q:備品は別に予算があるのですか？

A:備品は200万円を要望していますが、今日のワークショップでは、まず予算0の拠点づくりのアイデアを考えようという提案をしています。自分たちですべてをやるとしたらどんな方法があるのか、それくらいに挑戦する気持ちで話し合っていないと難しいです。例えば隣の商工会議所とよい関係をつくり、トイレや駐車場を貸していただくことも考えられます。

設備について

Q:電話線はきていますか？

A:電話線というより、ネットワークの配線等をどうかしないといけない。電気的なものはあまりお金はかからないが、水回りに関しては結構かかると思います。

Q:今のトイレは使えますか？

A:使えます。しかし、和式のトイレなので整備が必要かもしれません。

駐車場について

Q:駐車場は青少年センターを利用可能ですか？

A:空いていれば可能だと思います。青少年センターの団体の利用もありますので競合があると思います。

Q:青少年センターは、止められる台数は少ないのですが比較的空いているようです。システムとしては、必ず青少年センターに来ているという許可証を貰ってダッシュボードに置いておかないといけない。拠点の利用者もそういったことをやるように話し合ったらよいのではないか？

A:今後の話で聞いておきます。ここは駅に近いので、なるべく電車で来てほしいと思います。

物置について

Q:外に物置はおけますか？敷地の所有権は？

A:フェンスからこちらは大和市の敷地になります。今は、共存しているので今後も共存していきたいと思っています。フェンスを壊すことについては、別の話になります。

Q:今ある商工会議所の物置の隣に、置かせてもらうことはできないか。

・NPOをやっている者として、会議用としてこの拠点の意味合いは大きい。備品をしまいたいという要求があるのですが、物置としてどこかのスペースを取ってしまうと、場所が塞がれてしまいます。物置が外に置けるというのであれば、望ましいと思います。

・ある団体が1つで持つと場所がないので、共用にするとういのは。

・小さい物置だと占有になってしまうので、各団体が閉まっておける機能が必要。

A:まだ建物の外の敷地のことまで考えていなかった。まずは、この建物の中身の話をしたと思います。外に設置することも場所があれば可能だと思います。

運営方法について

Q:申し込み場所などを管理運営していくのは、市として職員を増やすことはできないと思います。が、どのような運営方法を予定しているのか？

A:予定はありません。運営方法については2回目のワークショップで話し合うことにしています。職員がここに常駐するということはありません。



利用団体数の予測

Q:協働の拠点の利用団体数の予測は？拠点部会としてはどう思いますか？

A:インキュベーション機能を置くときに、どのくらい手を上げてくれるか調査をしました。6団体くらいありました。

Q:それはインキュベーション機能の場合であって、この拠点を利用する団体数はもっとあるのでは？その場合の団体数はどのくらいだと思っていますか？

A:完全にオープンにした場合の把握はしていませんが、イメージとして、私書箱は20～30個を考えています。

Q:市民事業として届け出をしたところが使えるのか、届け出をしなくても一般市民団体が利用できるのか？それによって利用数が変わってくると思いますが。

・ボランティア団体の登録が60以上ある。協働事業にはボランティア団体は入らないんですか？

A:条例の中に、「協働の拠点を整備する」とあります。それに基づいて拠点ができるんですが協働していきたい団体は届け出ができることになっています。届け出をすることによって拠点が利用できます。

・通常利用するのに制限はないと思いますが、レターケースを置きたい場合は届けが必要になると思います。会議したり少し借りるくらいは、登録は必要ないのでは。

Q:そうは言っても、共同で備品を使うのに責任を持って使ってもらわないといけない。誰が使ってどうなったかわかりませんというのは

よくない。

A:それは当然です。運営委員会で決めることになる。規模がこれくらいだから数がいくつまでというのではなく、数が増えれば次のステップに進むこととなります。数に合わせて見積もりをする必要もない。

Q:物置をつくる話が出ましたが、外につくる前にこの中で荷物がどれくらい置けるか考えるので、想定される荷物の量は？

A:団体の活動様式にもよりますが、例えば年度毎の資料など、個人の家に保管できないものを置くのではないかと。備品を持っているところと、持っていないところとあると思いますので、これくらいあるとは、今は言えない。

Q:少し大きめのロッカーのように、物を仕切って置くことができるのか。それともこのスペースを完全に確保し、外につくらないといけないのか？

A:備品を置きたいという要望があるとわかりました。現実を見て想定をし、どの程度を1団体に割り当てられるのかこれから考えてもらうしかないと思います。団体数とスペースが決まっていないので、どちらかを条件にするのは難しい。

Q:協働事業として認められている事業で、協働のつくり方によっては、必要な物の保管は市が行う案がありました。備品の置き場はここだけに限らなくてもいいのではないですか？

A:ここ以外に別のスペースを利用することもあります。今は、この拠点をどうするかという方向で議論したほうがいいと思います。

運営費について

Q:この事務所を使うことによって市役所から公の金として予算をいただけるのか？

A:一人分の運営費が出ますが、限られた時間で区切られてしまいます。時間外は管理者がいない状態になります。今の予定では、9～5時の時間帯の光熱費は市が出します。

・市の職員が来るわけではないのでどういう仕組みにするかは次回に決めたい。

Q:この程度の予算では難しいのではないかと何かで稼くなり、貯金をするなどしないと、

これだけの予算を確保するのは難しい。自前で500万円確保するくらいでないダメ。

・茅ヶ崎の運営費はどうしているのか？

A:市が持っています。20人程度の運営委員会をつくっています。委員には、最初から働こうと意志を持っている人を集め、委託という形をとっている。

・私は、一昨年見学してきました。建物は新しく、自由に使えるスペースがよくできています。

拠点の利用イメージを考える

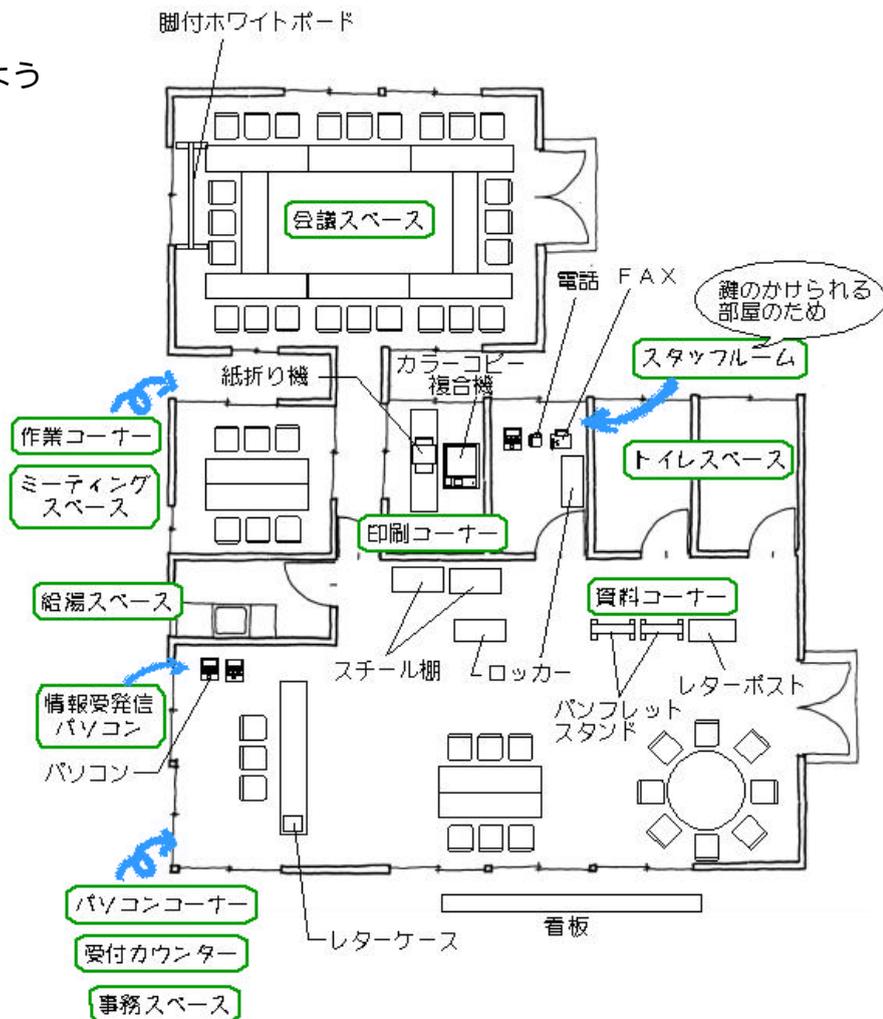
拠点整備のための予算はほとんど期待できません。そのことを前提に最低限の予算でできる拠点の整備計画を3つのグループに分かれて考えます。

必要な機能を一覧表に書き出し、図面をもとに各部屋の利用計画を立てます。そして改修費用を最低限に抑えるための工夫を表にまとめました。

グループ1

必要と思われる機能	特に配慮したい内容
会議室スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室。仕切りはつい立位、小会議室、5～6人 ・中会議室(20～30人)と小会議室と2つ欲しい。
作業コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・作業台。大きい物を置く。 ・作業コーナーを特別に用意することはできないのではないか。
事務スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室の部屋は中央通路の小部屋1つにしぼる。 ・備品帳のようなものをつくり、常に「有る」という状態にしたい。 ・事務局スタッフの部屋は必要
受付カウンター	
印刷コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー、FAX、プリンターが1つになっている機械をリースで置きたい。 ・コピー機、印刷機、裁断機は必要。音が出るので独立部屋。
資料コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・床面積を極力少なく。ラックかボードで！！ ・各グループにロッカーを作る。 ・資料、コピー、印刷機。
相談コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングコーナーはキャスター付のイスとテーブルで、必要に応じその都度設ける。
パソコンコーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでの情報とるため、パソコンは必要。 ・パソコンは中央の通路の片方の小部屋にまとめる。
ミーティングスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・会議スペースで空いている部分でやればよいからよい。
倉庫スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーを置き、それぞれ「カギ」がかけられるようにしたい。
トイレスペース	
給湯スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・備品、フリースペース。 ・コーヒー。お茶の10円コーナー。
その他スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所所在地とする団体用の郵便受けBOX。 ・市民活動、協働事業以外で地域(近隣の人)が来られる(使える)工夫として販売コーナー。 ・将来的に市民活動団体の個人事務所室(コーナー)を検討する必要がある。共有に不可欠。
	改修費用を最低限に抑えるための工夫
市民のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・不要品の募集活動(必要リストと提供品データ管理) ・内装費を極力抑え、掃除と壁ぬり。 ・寄付金
企業のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・メセナ活動(イオンとイトーヨーカ堂など)へのアピール(パソコン[new、中古]寄付)
商工会議所のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの使用フリー ・市民活動団体との交流、相互理解。
商店街のできること(マルエツ、駅周辺)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントと市民活動のタイアップ。 寄付 ・空店舗NPO活用 商店会の活性化。
その他のできること	<p>大和警察に防犯見回りを要請 携帯用スロープを備品として置き、車いすの人が使えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修費工夫(サボセン渡辺) ラプスサポートセンターが保有する備品類を活用する。 事務机(大型2) 長机(6) パイプイス(15) ロッカー(1) PCノート(2) デスクトップ(旧)(3) 書棚(1) パンレット台(1) 収納棚(アンプル製)他 ビデオ。 ・インキュベーションのためのスペースは現在は考えていません。

配置図の上で
利用計画を考えよう



拠点の整備計画のポイント

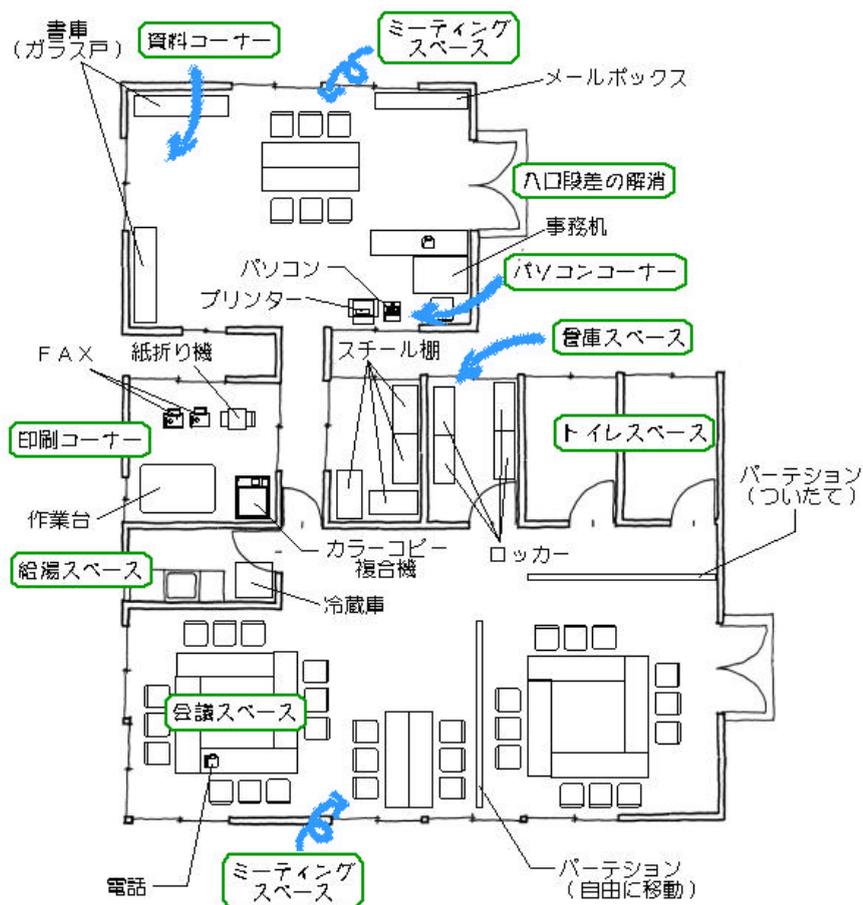
- ・間取りに焦点を当てて先につくりました。
- ・間取りのコンセプトは、フリースペースを大きくし、大小の打合せをフレキシブルに人数に応じて設営できるようにしたい。
- ・20人くらいの会議スペースは必要。予約制。
- ・フリースペースは、丸テーブルなどを置いたり、打合せができるようにする。こちらは、予約なしでフラッと来て居られるようなところ。
- ・雰囲気づくりとトイレの目隠しとして資料コーナーをつくる。データポストやパンフレットスタンドなどを置く。150cmくらいのものですが、本当はもう少し高い物が欲しかったが、備品としてこれしかなかったので、これを使った。
- ・スチール棚を置く。
- ・現在の電話相談室が唯一鍵の閉まる部屋なので、拠点として貴重な資料を保管したり、直接の事務をしたりする人がいて、電話、FAX、パソコンなど置き管理ルームにする。
- ・管理する人は、外に出て相談コーナーなども行う。
- ・個室に印刷機、紙折り機などを置く。コピー機は受付カウンターのほうへ置く。
- ・印刷コーナーで、作業をするスペースとしても使えるようにする。足りない場合は、普段ミーティングスペースで使う(給湯室の隣の)部屋も利用可能。
- ・パソコンは、ここに来て使用するのはいらない。情報発信、情報受ける事を考えコピー機の場所と一緒に考えた。ここでいろいろなデータをつくることは考えていない。
- ・倉庫スペースは使わなかった。今後必要に応じて考えたらどうか。
- ・どのくらいの書類やどんなものを置くかわからない段階で、固定的には設けない。
- ・電車から見える側には横断幕風の看板をつくる。
- ・フリースペースには、キャスター付のテーブルとイス、パーティションにして、目隠しをする。スリースペースなのであまりいじらない。

グループ2

必要と思われる機能	特に配慮したい内容
会議室スペース	
作業コーナー	
事務スペース	
受付カウンター	・受付カウンターの脇に私書箱を置く。
印刷コーナー	・コピー機1台、印刷機1台。 ・印刷コーナーは、印刷（コピー）のみの機能のスペースで良い。 ・シュレッダー
資料コーナー	・だんだん増えて、スペースが圧迫される可能性がある。「捨てる」「整理する」ことを日常的にする。
相談コーナー	・相談コーナーのイメージがもうひとつわからない。インキュベーション的な機能も分けもつのか。持ちたいと思いつつ。
パソコンコーナー	・少なくとも1台はインターネット接続ができること。 ・データベースを準備整理。資料コーナーから捨てるもののデータストック。
ミーティングスペース	・壁を絵やphotosの作品のギャラリーにして、レンタル料をとる。自活の道をさぐる。 ・音が出るリハーサル等の保障をしてあげたい。 ・交換コーナーも（物が技術）
倉庫スペース	・各団体が、ロッカーや柵を持ち込むのではなく、共有の柵が必要。 ・同じ容量のストッカーなどを利用する。 ・印刷用の紙を置きたい。保存必要の書類も置きたい。
トイレスペース	・トイレは、当面改修しない（商工会議所のトイレを1つバリアフリーにさせていただく）。
給湯スペース	
その他スペース	・団体の備品を収納する。共用倉庫（物置）が必要。（おける）スペースあり。 ・スペースとして、 ゴミ（廃棄物） リサイクルできるもの。 ・看板及び案内標識の設置。 ・例えば「ゴミ類は使用者のもちかえり」システムとする。

	改修費用を最低限に抑えるための工夫
市民のできること	・技術の提供。改修ペンキ塗、清掃、配線。 ・改修工事（ペンキ塗、クリーニング等）の労務提供。 ・改修工事をする時、各工種のできる市民ボランティアの募集。
企業のできること	・在庫品寄贈、サンプリングの提供。 ・不要となった什器備品の無償提供。 ・イオン、ヨーカ堂の若いスタッフが改修日に労働を提供してもらう。
商工会議所のできること	・J Cの若いスタッフの労働の手としてご提供くだされば。 ・基本計画に応じた専門業者の選定。 ・紙機材の提供を呼びかける。
商店街のできること	・安価で物品の提供を願う。量店の協力。 ・商店街との協定をして何かしてもらう。
その他のできること	・市民、企業からの寄付金の募集。 ・物かサービスか労働か寄付金かといった、それぞれの得意としている所で提供をしてもらいたいと思っている。

配置図の上で
利用計画を考えよう



拠点の整備計画のポイント

- ・入口は、バリアフリーを考えた。車との関係、スロープをつくることを配慮した。戸の開き方向に問題有り。
- ・会議、ミーティングルームは、島をつくり数を多くした。講義室にも利用可能にし、多目的にした。
- ・入口は、事務机がありパソコンや電話などを置く。客に対応できるスペースもつくる。
- ・書庫を置き、みんなが見られるようにする。
- ・印刷機、コピー機を置き製本もできる。
- ・棚には我々の資料を置き、倉庫スペースとする。既製品の棚を使うか、棚をつくるかは、まだ決まっていません。
- ・ロッカーは、利用者の着替え等を置く。更衣室にも使う。狭いところなので、パイプなどでつくった衣紋かけを置く。
- ・出入りの所を目隠ししたい。

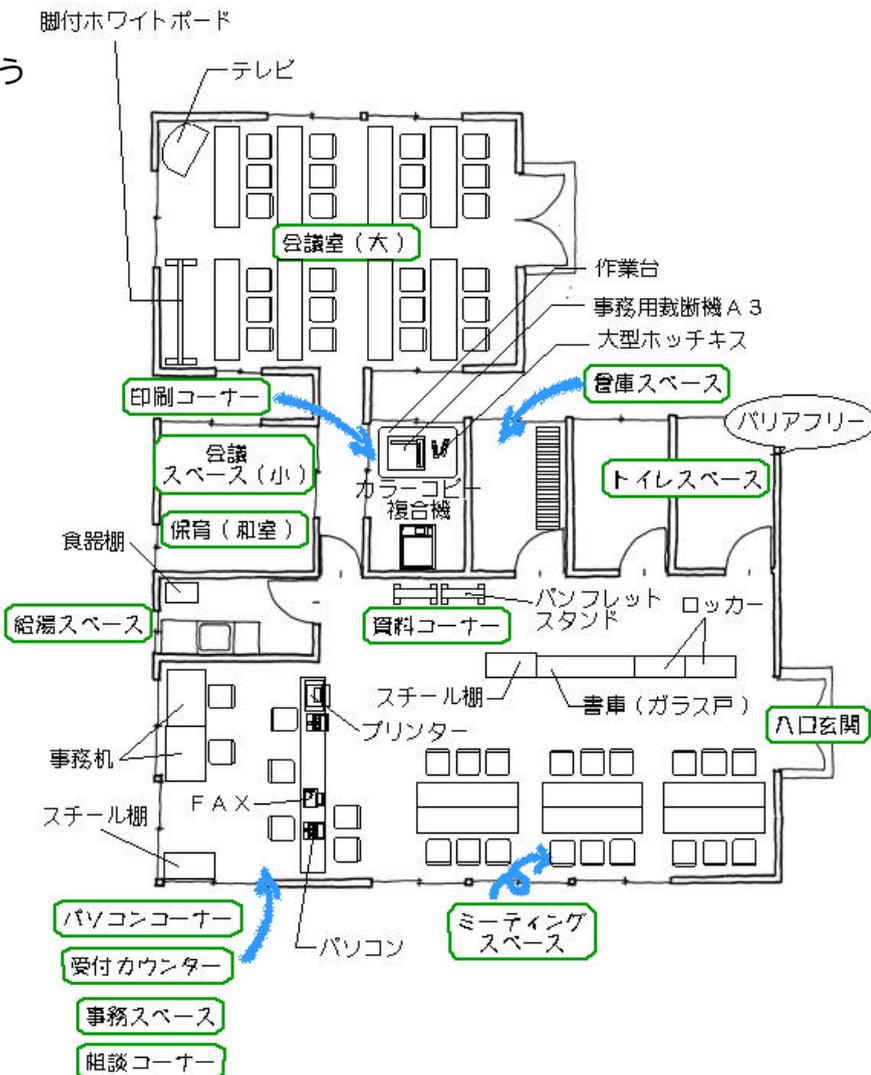


グループ3

必要と思われる機能	特に配慮したい内容
会議室スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・20～30人くらい会議できる。講座等にも使える。 ・利用団体数にもよるが、会議室は個室にした方が（声がとびかい気が散るので）。 ・ビデオを見たりできる。
作業コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・作業台も必要。 ・あまり広くとると乱雑に使うのでせまくてもいいが必要。
事務スペース	
受付カウンター	<ul style="list-style-type: none"> ・レターケース
印刷コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・作業台と印刷コーナーは一緒もしくは隣り合わせが良い。
資料コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・資料関係の本などの貸し出し。
相談コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談室（民間で相談したいグループも今ある） 市民団体などの案内（受け付け事務といっしょでいい）。
パソコンコーナー	
ミーティングスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンフリースペース（予約なしの自由）。 ・フリースペースを設ける。 ・机一つの事務所貸し。交流が生まれる。
倉庫スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・大小のロッカー。
トイレスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー
給湯スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・自販機。ジュース、お茶。 ・お茶、お湯、水を供給出来る（紙コップ）。自動給茶機を設置。
その他スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・保育スペース ・電話相談や面接相談等にも使える個室としてもあるといい。 ・地図（どこにどこのグループがあるかわかるようにする）、掲示板スペース。 ・入口部の改善。

	改修費用を最低限に抑えるための工夫
市民のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを募ってやれることをやってもらう。 ・過去の経験を生かしたプロの技を提供願う。 ・インテリアコーディネーターの宣伝用に安価におねがい。 ・そうじ他（ラプスを使って提供してもらう）。
企業のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の知恵を借りる。 ・不要な品、時代おくれまたはキズ物や余り物の無料提供。 ・貰った場合は企業名をPRさせる。トイレ改修費、企業のショールームに。 ・各種改修を無償（原価）で実施してもらい、企業宣伝（PR）をしてよい。
商工会議所のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・会員に対してのPR、情報提供。 ・隣接のよしみで協力要請に対して前向きに検討する。
商店街のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫に寝ている備品の提供。
その他のできること	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ゴミから拾う。 ・リフォーム番組に申し込む。 ・記念品贈呈を募集。 ・宣伝もかねて祭りをして、募金、協力をつのる。

配置図の上で
利用計画を考えよう



拠点の整備計画のポイント

- ・ 入口のバリアフリーなどは見ずに、入口を決めてしまいました。
- ・ 入口を入ってすぐがフリースペース。個人団体関係なく、いつでも予約なしで自由に來れる場所。ここに来れば、市民活動や大和の新しい情報がもらえる場所。
- ・ トイレが見えないように、有料のロッカーや書籍でパーティションにして目隠しをする。その壁を利用して、情報を貼る。
- ・ 受付を入口近くにしましたが、後ろが狭いので奥にした。
- ・ パソコンは、説明が必要な方がいるので、事務局から離れていると手間がかかるため、一カ所にまとめました。
- ・ 自販機がほしいと思ったが、商工会議所にもあるのでそれを使い、商工会議所に売り上げを寄付し私たちも少しもらえればと話した。
- ・ 印刷機、紙折り機は音がすごくするので、1カ所にまとめる。事務所としての倉庫も必要なので、印刷室と一緒にする。

- ・ もう一部屋は、会議室(小)にしました。畳のいらぬのを貰ってきて、会議のない日は保育室にも使える和室のスペースにする。
- ・ パーティションで区切っても会議室は声を通してしまうので区切らないで使う。

拠点部会としては、最初に描いたものから予算などを含め縮小してしまい、大丈夫かと心配になりましたが、すべてを明らかにしたのでポジティブに考えていただけました。
(伊藤雅春/玉川まちづくりハウス)

我々は、スタッフルームの確保が思いつかなかった。
(小杉皓男/拠点部会部会長)

本日の成果についてまとめ

市民自治が問われるようになってきました。ここはロケーションも面白いし、平屋なのでぐんぐん入ってこられるなど、市民が活動しやすい条件もあるので、どううまく運営していくかが重要になります。人材は大切だと思います。

例えば、9～5時ではなく、24時間オープン可能であったら、新しい発想として加えていける場所でもあります。次回は、運営方法をワークショップで考えていきたいと思っています。今日は、お疲れさまでした。ありがとうございました。（小杉皓男 / 拠点部会部会長）

次回ワークショップは運営についてです。一人分の人件費をどう使うか。運営体制によって、活動拠点の中身がどのように活性化していくかが違ってきます。運営に関わってみたいと思う人が身近にいたら、お誘いして来てほしい。

誰がこの受付をするかによって、集まる場所も変わってくる。

（伊藤雅春 / 玉川まちづくりハウス）

感想カード

本日のワークショップについて、最後に皆さんに感想を書いていただきました。

・いろいろな人と出会えて楽しかった。準備の段階、企画の段階にできるだけたくさんのグループや人をまきこむと、できた後につながると思う。

・活動拠点のワークショップということで参加しましたが、楽しい時間でした。私たちが市民として活動するときの拠点をつくるためには使う側が積極的にかかわりつくっていくことが改めて大切であることを実感しました。

・何もわからず参加しましたが、少しだけ内容が見えた感じがします。今後も協力していきたい。なかなか面白いワークショップでした。

・不備知識不足で参加しましたので、とまどいでしたが、勉強させてもらいました。

・何をやるにも金がかかると思いますが、各団体に声をかけて、市民、各団体の力を借りてよいものをつくりたいと思います。

・やはり、今まで通りのセンターにおちついたようですね。もう少しスペースがあれば、大和らしくなったでしょうか？

・極めて特異な建物、間取りの中にコストをかけないで、レイアウトすることの難しさを痛感しました。多くの意見が出されていますが、それぞれもっともな提案であり、少しでも多く反映していただきたいと思います。何はともあれスタートすることが先決となりますので、どんな形であれ早期実現が望まれます。

・早く事務局体制を立ち上げ、コアとして事業計画案、予算（運営の）をつくっていく必要がある。今回のWSはアイデアが出てよかったのでは。今後、若い人も参加してくれることを期待したい。

・天気も悪く、参加者が集まるか少し心配でしたが予想外に多くの方が参加されてよかったです。特に、今まで交流のなかった商工会議所の方などが参加くださり、よかったです。次回も多くの方の参加を期待しています。

・伊藤さんの前向きな仕切りで有意義なWSになりました。感謝。商工会議所の方の参加はヒットでした。何か見えてきましたね。